


一般質問通告書

次のとおり、質問したいので通告します。

平成30年 8月 17日

山北町議会議長 府川 輝夫 殿

受付番号	第5号	質問議員	2番	藤原 浩	
件名	木質バイオマスボイラー導入で林業活性化推進を				
要 旨					
<p>1. 山北町は、約9割が森林地域の、自然豊かな町である。町では第5次総合計画の中で、林業の振興として、交付金を活用した森林整備、森林セラピーを活用した体験ツアーの実施、公共施設木材利用計画による町産材の利用拡大、なえぎの学校を拠点とした都市住民との交流活性化、林道などの事業環境整備を行っているが、まだ十分な成果を得られていない。今以上の交付金を活用した事業の継続が困難な状況を鑑みると、新たな施策が必要と考え以下の提案をする。</p> <p>(ア) 町内の森林整備、林業の活性化を進めるには、木材を切り出し、流通活性化する事が必須である。町では、既に第5次総合計画の第5章、第2項、林業の振興のなかで、「間伐、除伐材のエネルギー活用の調査研究を進めます。」と謳っている。それならば、山北町の特長である森林資源を活かし、歴史文化に基づく観光産業と融合できるよう、山北町に適した「(仮)木質バイオマス資源の持続的活用による再生可能エネルギー導入計画」を策定し、実現に配慮し、関係する事業者、団体との協議。合意形成の実施、導入のための調査を行うべきと考える。木質バイオマスについては、近隣市町でも導入実績があり、計画策定、調査が行われており、調査・導入のための、国・関係機関の支援メニューも用意されている。町内の関係団体の活動状況を考えると十分実現可能なプランであり、速やかに進めるべきである。</p> <p>(イ) ぶなの湯や健康福祉センターは、熱源設備更新計画検討が求められる時期にきている。両施設とも化石燃料を使用しており、木質バイオマスボイラー導入により、燃料費の節減が図られるだけでなく、間伐、除伐材の利活用とそれに伴う、雇用創出が見込まれる。切り出した木材を乾燥させ貯木するスペースが必要であること等の課題もあるが、それ以上にメリットの方が多い。町長の所信表明にある、「老朽化した公共施設の更新・長寿命化」、「森林と清流を生かしたまちづくり」にも合致する事業である。ぶなの湯、健康福祉センター等木質バイオマスボイラー導入の具体的な検討を速やかに行うべきと考える。</p>					

2. 平成29年6月の定例会における一般質問で、地域の現況を見据えた防災計画の見直しについて質問を行った。その際、広域避難場所・避難所の選定、特に避難所として指定されている生涯学習センターの収容人数について質問した。町は、十分対応できるとは考えていないが、他に適当な施設が見当たらないことに鑑み、避難者を収容しきれない場合等を想定し、町内外の公共・民間施設を視野に近隣市町と連携し、必要な支援を行っていかねばならないと考えていると回答している。

近年の様々な自然災害の発生で住民の不安は増すばかりであり、災害時の町の対応、避難所に求める要求もより高度な対応が求められる。

ア) 質問から、1年以上経過している。町の広域避難場所・避難所に対応する検討状況はどうか。

イ) 内閣府で示しているトイレの設置数は、短期的な場合で50人に1つ、長期的な場合で20人に1つとされており、男性:女性の比率は、1:3が適性とされている。現在生涯学習センター内のトイレは、総数で40基、男女比で約1:2である。これは想定推定人数3,728名に大きく及ばない。不足している分については、庁舎地下防災倉庫に備蓄している災害用トイレや排使用収納袋の利用で対応する考えだが、具体的な検討がなされているのか。